

地域の高等学校教育のあり方に係る意見を聴く会 意見概要
<長浜市教育委員会>

- 日 時 平成24年(2012年)7月31日(火) 18:00～19:05
- 場 所 長浜市役所浅井支所会議室
- 参加者 長浜市教育委員 5名
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 湖北地方は交通事情、特に雪の問題がある。子どもの通学、安全・安心を考えたとき、交通事情は大きく影響する。
- 生徒数が減っているから統合という形をとられてしまっただけでは、近い学校で自分の力を見極めて、将来の進路を考えようとする子どもにとっては、厳しいことになるのではないかと思う。この学校に行ったら、こういうことが出来るとか、魅力的だからここに行こうといった具体案を出して欲しい。簡単ではないが、皆が納得するものを出して欲しい。
- 再編計画は百年の大計であり、地域も保護者も真剣に考えて行かなければならない。
- 全県一区制度になり、どの地域の子どもの選択の可能性が狭められることがあってはならない。どの地域の子どもの選択の保障をしていくことは大事である。保護者・子どもに対し、この学校では何を学習できるのかといったことをはっきり提示してほしい。
- 県の示している規模は適切で、子どもの成長を保証していく上で良いものであるということが詳らかになっているか疑問である。
- もし、統合に向いていくのであれば、虎姫、伊吹、長浜北など、それぞれの高校が特色ある学校になるように考えていただきたい。定員の確保もお願いしたい。
- 今回の再編で関心が高いのは、学校が減ることに対する不満、生徒が湖北から南に随分流れているのではということ。もう一つは全県一区に対する疑問があること。県として実施したということは、メリットがあるからであろうから、大前提として全県一区を進めた理由を示してほしい。
- 学校が減ることに対して、何年か先には生徒数が減るので、再編はやむなしと考えている。
- 6～8学級規模が望ましいとすることは、何を根拠として言われているのか。
- 再編時期については、高校教育をめぐる状況から見て、昨今検討する時期ではあると感じている。問題は、昨年7月に基本計画と実施計画を同時に出されたこと。実施計画は、その根拠が県民には分かりにくく漠然としているのに対して、湖北に関しては具体的で大胆な実施案になっていた。地域には唐突に映った。湖北の高校教育は、これで良くなるのかと疑念が出たのは当然のこと。問題の大きさから、当初から丁寧な取組のうえで出されるべきであった。
- 高校教育を考えると、義務教育についてどれだけ認識しているのか。小中との連携に課題があるのではないかと感じている。湖北において、長浜市は10年前から小学校1年生から英語教育を実施している。9年間英語教育に取り組んだ生徒を湖北の高校ではどのように伸ばしていくのかという視点が弱いのではないか。
- 全県一区になって、湖北から出て行く生徒が増えている現実がある。何故なのか、湖北の高校に生徒を引きつけるような魅力、学科なり教育課程なりがあるのか、実際にはどうなのかと感じている。例えば、理数科は膳所、米原にある。米原高校は湖北と認識されているが、湖北、湖東に

いずれも行ける準湖北であることから、湖北に理数科という発想はなかったと思う。さらに、体育、スポーツに長けた子どもたちは、中学校の部活動を見ても他の地域と遜色はない。優れた力をもった子どもたちの受け皿となる学科がなかったのではないか。一方で、中高一貫教育については、当初5校設置する予定であったが、3校のみ設置であり、今回の再編計画では、設置しないと断言されている。そういう点で、湖北の子どもたちや地域が考えているような魅力のある学校づくりとしては、原案はかなり課題があったのではないか。これらを踏まえてしっかり再検討して欲しい。

- 中学3年生は、すでに各高校の学校説明会、公開授業に参加している。進路についても夏休みには家族とも相談している。再編がどうなるかが明確になっていないことが、不安材料となっている。少なくとも現3年生が卒業するまでは現行制度で行くとはっきりとしていただきたい。
- 長浜市では、長浜の未来を開く教育検討委員会を開き、長浜市教育委員会事務局も参加している。県にも評価していただいていると認識している。先般第一次提言が出されたが、十分理解できるという教育長コメントを新聞等でも読んだ。検討委員会は、内容をまとめて、この秋には第二次提言を示すという認識をしている。県が評価していただいているのなら、二次提言を踏まえて原案提示をしていただくことを強くお願いする。どういふ案を出すかは県の責任で再編計画は出されればよい。慎重に対応していただきたい。
- 全県一区に関することだが、学力が全県で上がるとか、部活動が活性化するとか、高校生活がより充実するとかなら分かるが、行きたい学校に行かせるということが、本当に全県の教育の充実に繋がっているかが疑問。
- 前回の長浜市の検討委員会では意見が集約されてきて、焦点は切磋琢磨できる学校をつくること、選択可能な学校づくりをすることになっていると思う。要するに切磋琢磨できるというのは進学校のこと、学力の高い高校のことである。要は湖北にもそれが必要だという認識で言っているということだと思う。自然環境のハンディを乗り越えた、魅力のある普通科の高校を作っていただけという認識でよいか。
- 進学校を2校つくるといふのは、彦根東高校への流出を防ぐ対策にはならないのではないか。
- 検討委員会は今後2次提言として秋にも意見を出す努力をしておられる。具体案を出して欲しいというなら、計画案の公表はそれを待つべきではないのか。
- 統合についてはいろいろと意見があるが、湖北の子どもたちが定員の中に収まり、魅力と活力のあるという点において、生徒にしわ寄せがいかないようにしていただきたい。
- 伊吹高校に長浜高等養護学校の分教室を併置するのはいかがか。伊吹高校の施設を一部転用して伊吹高校の教育を保障できるのか。
- 長浜北星高校定時制は商業科であるが、商業科が定時制志向の子どもたちと乖離しているので学科を変えればよいのではないか。単位制高校というのは一つの方向と考えている。単位制高校を能登川高校に限定されると、長浜の子どもは困ることになる。何らかの対応をしていただきたい。
- 長浜北星高校のまちづくり系列は、高校の総合学科の系列の学習として成り立つのか、学問的にもカリキュラムにおいても成り立つのか、どのような進路保障を考えているのか。単に長浜市のまちづくりに乗っかっているだけではないのか。しっかり検討していただきたい。